

# 法華宗信報

H o k k e s h u S h i n p o h

NO.151  
お会式号

平成28年10月1日  
【発行】法華宗宗務院

つ  
な  
ぐ

今あることを感謝して



## CONTENTS

- 2 管長法話 御報恩御会式の奉修について 小西日遼猊下
- 4 日蓮大聖人をたずねて 佐渡
- 6 世界文化遺産 富士山を巡る④ 富士五湖
- 8 ENKAI 開催のお知らせ・マンガ「光くん日記」・編集後記



# 御報恩御会式の奉修について



法華宗管長  
大本山本興寺貫首

小西 日遼

法華宗の寺院・教会・布教所では、毎年十月・十一月に御会式の法要が営られます。

これは宗祖日蓮大聖人の御命日に奉修される法会で、大聖人が生涯を懸けて、私達に法華経を信仰することの大切さを伝えられたことへておりまます。従つて御会式は大聖人の御一生を思い起こし、その御苦労を偲ぶ法要でもあります。

大聖人は、大難四箇度、小難しばしばと言われる程の様々な法難に遭われました。大難とは、まず文応元年（一二六〇）八月二十七日、松葉谷法難が起きました。これは、その年七月十六日に幕府に「立正安國論」を進覧されたところ、「夜中に日蓮が小庵に数千人押し寄せて殺害せんとせしかども、如何がしたりけん、其の夜の害も免れぬ」とあって、大勢の念

仏信者達に襲われたのです。「立正安國論」で念佛信仰を批判したことによるのでしよう。さらに弘長元年（一二六一）五月十二日には伊豆の伊東に流罪となり、文永元年（一二六四）十一月十一日には「安房国東条松原と申大路にて、申酉の時、数百人の念佛等にまちかけられ候て、日蓮は唯一人、十人ばかり、ものの要にあふものはわづかに三、四人也。いる

矢はふるあめのごとし、うつ太刀はいなづまのごとし。弟子一人は当座にうちとられ、二人は大事のにて候。自身もきられ、打れ、結句にて候し程に、いかが候けん、うちもらされていままでいきてはべり」という小松原法難があり、文永八年（一二七二）九月十二日には、龍口法難に遭われました。それは「云文永八年九月一二日御勘氣をかほる。（中略）平左衛門尉大将として数百人の兵者に胴丸きせて、鳥帽子かけして、眼をいからし声をあらうす。（中略）少輔房と申者はしりよりて、日蓮が懷中せる法華經の第五卷を取出して、面を三度さいなみて、さんざんとうちちらす」という状況の中で捕らえられ、由比の浜に引き出され首を切られるという時に、江ノ島の方より月のような光り物が現れて斬首は免れ、佐渡島への流罪となつたのです。大聖人は十一月一日塚原三昧堂に着かれてより、文永十一年（一二七四）三月八日の

流罪赦免状到着までの約四年ヶ月在島され、その後身延山に入山されました。これまでの激しい布教活動と身延の厳しい自然の中での生活は大聖人の健康を害し、弘安五年（一二八二）の秋には養生のために「常陸の湯」をめざして身延山を下山、九月十九日武藏国千束郷池上宗仲の館に着かれましたが、疲労が甚だしく遂に十月十三日この地で入滅されました。大本山光長寺藏日法聖人筆写「大般涅槃經要文」の巻頭の日蓮聖人伝に「弘安五年十月十三日 大地震アリテ日蓮聖人辰時御入滅」とあります。御入滅時に地震がおきたと記され、また池上の地に桜が咲いたとの伝承があり、現在御会式に桜の造花を飾る謂われとなつております。

大聖人は、御自身の活動を「ただ妙法蓮華經の七字五字を日本國の切衆生の口に入れんとはげむばかりなり」と言われておりますが、常人に出来ることではございません。

大聖人の末法の衆生に対する深い念を想い、私達からも大聖人への御報恩感謝の御題目を捧げようではありませんか。

# 日蓮大聖人をたずねて

我日本の柱とならむ

我日本の眼目とならむ

我日本の大船とならむ

「開目抄」の節



塚原三昧堂



# 佐渡

日蓮大聖人のご生涯において、

大きなターニングポイントとなつたのが佐渡流罪でした。

鎌倉龍ノ口での処刑が中止となつた大聖人は文永八年（一二七一）十月に越後国寺泊から佐渡にお着きになりました。

その後極寒の塚原三昧堂（写真①）にて「開目抄」を執筆、

翌年には一谷草庵（写真②）へとお移りになり、大曼荼羅の開顕や「観心本尊抄」の執筆等精力的に活動なされました。

文永十一年（一二七四）に赦免され鎌倉に戻るまでの足掛け四年間、

拠点であつた鎌倉を遠く離れ、法華經の行者として

活動なさるお姿は、今も私たちの励みであります。

今回は、佐渡における日蓮大聖人をその活動場所と著作に注目しながら足跡を辿つてみました。

多の義の中にこれについて守護

所に数百人集りぬ。(中略)

念佛者等或は浄土の三部經、  
或は止觀、或は真言等を小  
法師等が頸にかけさせ、或は  
わきにはさませて正月十六  
日にあつまる。

塙原問答の一節「種種御振舞御書」



一谷草庵跡

いちのさわそうあんあと

日朗坂

にちろうざか



歴免状を持った日朗聖人と日蓮大聖人が出会われた御靈蹟

日蓮大聖人が一夜を過ごされたケヤキ



赤泊 日蓮大聖人着岸地



如來滅後五百歲始親心本尊抄冒頭  
本尊寫真

〔如來滅後五百歲始親心本尊抄〕冒頭

阿仏房の日蓮を  
扶持せし事は、  
偏へに悲母の佐渡国に  
生れ替らせ給て、  
日蓮が命を助給歟。

日蓮大聖人が佐渡でお書きになつた書状は  
真偽不明のものも含めて約五十通現存しています。

はるか離れた地にいる弟子、檀越を思い、  
海を越えて届けられたお手紙を通じて、  
私たちは日蓮大聖人と時空を超えて、  
繋がっている事を感じずにはいられません。  
是非、皆様も一度佐渡へ足を運んでいただき  
日蓮大聖人の足跡を訪ねてみませんか?

# 富士山を巡る④

## 山中湖

富士五湖の東端に位置する一番大きな湖です。湖面の標高は中禅寺湖、榛名湖について日本第3位、夏は避暑地として多くの観光客が訪れます。また湖畔から雄大な富士が望め、ダイヤモンド富士、逆さ富士、赤富士、紅富士など様々な富士山を一年中楽しめます。昭和31年には、寒冷地にしか生育しないとされていたマリモが発見され、県指定天然記念物「富士マリモ」と名付けられています。

面積6.57km<sup>2</sup>、深さ13.3m、周囲13.87km、海拔980.5m

写真提供：やまなし観光推進機構

やまなか

河口湖

西湖

精進湖

もとこ

山中湖

山梨県の富士北麓にある

の五つの湖を総称して

富士五湖といいます。

五湖はその昔、

富士山の噴火で流出した溶岩流が川をせき止めて誕生したといわれています。

平成25年には「富士山－信仰の対象と芸術の源泉」として世界遺産（構成資産）に登録されました。

# 富士五湖

（本当は富士六湖？幻の湖赤池）

精進湖の南東、瀬之波橋の真下付近に稀（10年に一度程度）に出現する湖で、普段は枯渇していますが台風や大雨により精進湖の水位が上昇したとき、地下水を通じて赤池が出現するといわれています。





写真提供:やまなし観光推進機構

面積2.10km<sup>2</sup>、深さ71.7m、周囲9.85km、海拔900m

## 西湖

青木ヶ原樹海の原生林に囲まれた神秘的な湖で、「乙女の湖」という愛称があります。また、平成22年にはかつて秋田県の田沢湖のみに生息し絶滅したとされたいた幻の魚「クニマス」が魚類学者でタレントのさかなクンによって再発見され話題を集めています。



写真提供:やまなし観光推進機構

面積5.70km<sup>2</sup>、深さ14.6m、周囲20.94km、海拔830.5m

富士五湖のほぼ中央に位置した河口湖は、観光施設、宿泊施設も充実し、富士登山、富士山周辺観光の一大拠点となっています。河口湖から眺める富士山は左右対称の美しい姿をしていることから、多くのカメラマンや画家の被写体になっています。また河口湖周辺には、日蓮大聖人の御靈跡（鼻曲り岩・法華堂、本庄家）や法華宗の寺院（妙法寺・常在寺・妙本寺・法華院教会）があり、日蓮大型人の息吹を感じることができます。



写真提供:やまなし観光推進機構

面積4.70km<sup>2</sup>、深さ121.6m、周囲11.82km、海拔900m

## 本栖湖

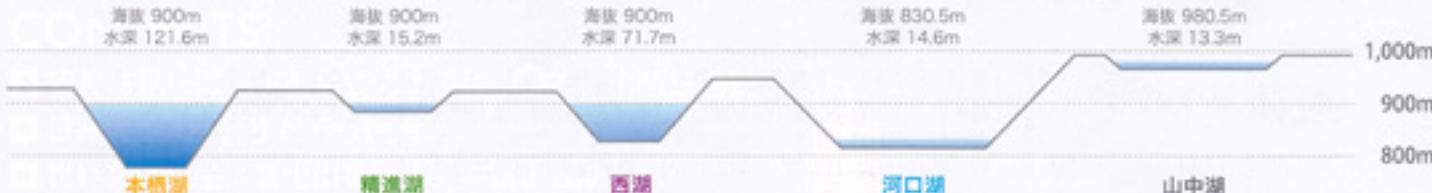
富士五湖の西端に位置する最も深い湖です。透明度も抜群で瑠璃色にきらめく湖水の美しさに多くの人が魅了されます。また、千円札（旧五千円札）裏面に描かれている富士山と湖は、本栖湖北岸からの景色です。



写真提供:やまなし観光推進機構

面積0.50km<sup>2</sup>、深さ15.2m、周囲6.80km、海拔900m

富士五湖中最も小さな湖です。富士山の溶岩が流れ出しているのが特徴的ですが、特に精進湖は専門的なヘラでも釣りが楽しめます。富士五湖はどこで溶岩がせり出しているのか、特に精進湖は専門的なヘラでも釣りで知られています。



## 精進湖

# 光くん日記

第8話



さて、今回の「お会式号」では、「日蓮大聖人御誕八〇〇年」にむけて、佐渡をとりあげております。少しでも、日蓮大聖人を身近に感じ、信心の糧として頂けたらと思います。

中臣 智要

## 法華宗宗務院主催 第3回「ENKAI(縁会)」 開催のお知らせ

国会においても「婚活」という言葉を

耳にするようになった昨今。

法華宗としましても、御縁ある方々の『良縁成就』を積極的に応援協力すべく、

昨年に続き良き出会いの場を企画致しました。

つきましては、下記募集事項により

参加者を募ることとなりましたので、ご案内申し上げます。  
この機会に是非奮ってご参加下さい。

参加資格	男性: 法華宗僧侶および全国法華宗寺院教会の檀信徒 女性: 全国法華宗寺院教会の僧侶、及び檀信徒、あるいは法華宗寺院とご縁のある方
参加人数	男女各20名
日 程	12月3日(土)
会 費	男性: 10,000円 女性: 5,000円 ※尚、遠方から参加される方で前宿泊、あるいは当日泊を希望される方は宿泊助成をさせていただきます。
開催場所	グランドニッコー東京 台場 〒135-8701 東京都港区台場2-6-1
申込方法	住所、氏名、年齢をご記入の上、郵送又はFAXで下記までご連絡下さい。参加が決定しましたら、詳細等をお送り致します。

連絡先 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-19-1  
法華宗宗務院内 担当: 渡部

TEL: 03-5614-3055 FAX: 03-5614-3056

※申込者多数の場合は、厳正なる抽選の上、参加者を決定させていただきますこと御了承下さい。

秋の夜長、虫の音が心地よい季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。近年は、なかなか秋らしい気候を感じられない気象の異常な状態が続いております。秋雨や台風などにより、大きな災害が起きないように願っております。

日蓮大聖人も、かつて國土安穏の御祈願をなさっていたように、我々も僧侶として日々、御祈願をしていかなければと改めて思うところあります。

### 編集後記